

無国籍の人々と 歩んだ 10 年とこれから

— 無国籍ネットワーク設立 10 周年記念・出版記念シンポジウム —

場所：早稲田大学 11 号館 710 教室

日時：8 月 24 日（土）15：00～17：30

- ・基調講演 新垣修教授 (ICU) 「無国籍のこれまでとこれから」
- ・山村淳平・陳天璽共著
「移民がやってきたーアジアの少数民族、日本での物語」
現代人文社、出版記念。山村医師と当事者との対談
- ・無国籍の当事者、専門家、ユースなどによるラウンドテーブル

対象：一般

参加費：無料

主催：無国籍ネットワーク

共催：無国籍ネットワークユース

*懇親会も予定しております。席が限られておりますので、
ご出席の場合は 8 月 20 日（火）までに以下へご連絡ください。



officer@stateless-network.com

STATELESS

特定非営利活動法人



NETWORK

無国籍ネットワーク

山村淳平・陳天璽共著『移民がやってきた -アジアの少数民族、日本での物語』 出版記念について



山村淳平医師の連続セミナーの内容をまとめ、山村医師と無国籍ネットワークとが協力して編集した著書の出版記念。山村先生の10年以上に及ぶ日本に暮らす難民申請者や強制移動を経験したアジアの様々な国から逃れて来日した人たちに寄り添って支援してきた実践から出来た信頼関係がこのプロジェクトのベースにある。その関係から無国籍ネットワークと共に2年にわたって連続セミナーの形でトークイベントを行い、その内容をまとめたものだ。さらに、日本の難民申請制度事態に関するデータとそれについての分析と解説を加えている。今の日本に滞在する移民（強制移民や庇護希望者／難民、無国籍者）が直面する様々な問題について知るための重要文献の一つとなるだろう。さらに、多くの場合、日本に庇護を求めて来た人が出身国では少数民族や宗教的マイノリティであることに着目することで、一つの民族や宗教的アイデンティティを中心とする国民国家のナショナル・アイデンティティに関するイデオロギーがマイノリティの集合的なアイデンティティを抑圧し、迫害し、かれらが国外へと避難するように追い詰める状況を取り上げている。「移民がやってきた」理由は、多くの場合、本国で少数民族やマイノリティとして生きることが許されず、迫害の対象となり、日本に庇護を求めることになったからなのである。

無国籍ネットワーク10周年記念について

陳天璽（ララさん）が10年前に知り合いや他の無国籍の当事者、弁護士等に声をかけて発足した無国籍ネットワーク。小さなボランティア団体として、地道にしかし誠実に活動を続けてきた。無国籍の方に寄り添い、その経験について聞くというのを活動の中心としてきた。その経験に基づいた情報をトークイベントなどを通して発信することで、無国籍者の状況やかれらが抱える問題を引き起こす日本の制度上の問題を指摘してきた。また、法律相談を通して、無国籍者の抱える法的な問題について話を聞き、速やかに弁護士と当事者とを繋げて個々の問題の解決に向けて貢献してきた。また、弁護士、学者、活動家と連携して無国籍と関連する問題（難民申請者、仮放免、収容）について情報発信と議論ができる場を設けてきた。特に、当事者自身の語りの場を設けることに務めてきた。ボランティア団体としてずっと活動を続けてこられたのは、当事者と活動を支えてくれた会員や賛助会員、メーリスに登録された方々を始めとするすべての人のおかげでもある。その応援と支援に対しても感謝の気持ちを込めて今回の10周年記念を開催したい。